

学校だより

9月号

港区立白金小学校

発行人 加納 一好

平成三十年九月一日

本気になること

校長 加納 一好

長い休みが終わり、学校は再び子供たちの元気な声に包まれています。夏休みには様々なことがありました。まずは、五年生の夏季学園です。八月二十日(月)から二十二日(水)までの三日間、箱根へ行ってきました。今年は猛暑で心配しましたが、箱根は涼しく、全日程を予定通り行うことができました。子供たちは集団行動のルールを学びながら、自然の中で楽しい思い出をたくさんつくりました。合唱団は今年もがんばっています。NHK全国学校音楽コンクール東京都コンクール予選、本選ともに金賞をいただき、九月九日(日)に開催される関東甲信越ブロック大会に出場を決めました。昨年はジャガーでしたが、今年は大わしがはばたいています。陸上クラブでは、六年生の中西君が、八月十八日(土)に日産スタジアムで行われた全国小学生陸上競技交流大会のジャベリックボール投げで、見事、第五位となり、入賞しました。

そして、全国高校野球大会は大阪桐蔭高校が優勝しました。金足農業旋風もありました。あいた時間には結構テレビをみていたのですが、今年も数多くの好試合が繰り広げられました。今年の第百回記念大会は「本気の夏」をキャッチフレーズに開催されました。その通りにすべての選手が本気で全力でプレイしていました。夏の甲子園大会は予選も含めて負ければ終わりです。ですから、どんなに点差が開いても最後まであきらめません。全力を尽くします。だからこそ、逆転サヨナラ満塁ホームランなど、びつくりするような展開になり、心を動かされるのだと思います。この「本気になる」経験は貴重です。野球を離れても、次のステージでその経験が生きてくることでしょう。それはバスケットボールでも、陸上でも、合唱でも同じです。「本気になる」「全力を尽くす」そのような経験を本校の子供たちにもさせたいと思います。学校の中では行事が一つの機会になります。二学期は学芸会があります。本気で全力で取り組むよう指導していきます。保護者や地域の皆様には、二学期もご協力いただくことが多々ありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

自然災害への備え

生活指導主任 伊藤 美由紀

本日、九月一日は防災の日です。事前にお知らせしました通り、引き渡し訓練を行いました。

東日本大震災に続き、熊本県と大分県を中心とした九州地方における大きな地震がありました。

地震の恐ろしさを改めて感じるとともに、私達はいつ、どこで地震が起きても、落ち着いて行動できるよう、日ごろから備えをしておくべきであることを再確認しました。今年度は、近畿・中国・九州地方の大雨による被害や、異常な高温による熱中症が災害と認定されたのも記憶に新しいところです。自然災害に人はどう対応すればいいのか、やはり考えていく必要があると思います。

学校では、毎年四月の避難訓練時に、各教室からの避難経路を、児童と確認しています。また、避難訓練を毎月実施し、地震・火事・津波など災害が発生した際には、どのように自分の身を守るのか、どのように避難するのかということを指導しています。月によって想定を変えており、使えない階段がある想定や、津波の恐れがある想定等があります。教員も児童も、毎月行っている様々な想定での避難訓練に真剣に取り組み、実際に災害が起きても、冷静な判断で行動できるようにしたいです。

いざという時のために、ご家庭での身の守り方を話し合っていたいただきたいと思います。

オリエンテーリング

特別活動部 坂 愛

七月十九日に、オリエンテーリングが行われました。これは、プラチナタイムの一つとし取り組んでいるものです。六年生をリーダーに縦割りの異学年集団でチェックポイントを企画したり回ったりしました。どんなチェックポイントがあるかと楽しい会になるかを考え、十人のコーナーを設けました。チェックポイントを決める話し合いでは、グループが協力して取り組める内容であるかを何度も確認しました。

当日は、自分たちで考えたチェックポイントをスタートに様々な活動に取り組みました。どのコーナーでも、上の学年が下の学年を気遣いながら楽しく活動する姿が見られました。

終わりの会では、活動の振り返りを班ごとに行いました。楽しかったことやもっとこうすればよかったことなど、思い思いに感想を出し合いました。全体の会では、班長が班の振り返りを発表し、全体で感想を共有することができました。全校の前で自分から挙手して発表する六年生の姿が他学年のお手本となっていました。

一学期の終わりに、所属感や連帯感、仲間意識を深められたよい活動となりました。来年は、さらに充実した内容になるよう、二学期からのプラチナタイムでさらに力を伸ばしていきたいと思えます。